九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

研修報告/アーク溶接等の業務に係る特別教育

島袋, 瞬
九州大学応用力学研究所

https://hdl.handle.net/2324/1956612

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 19, pp.55-55, 2018-10. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

研修報告／アーク溶接等の業務に係る特別教育

島袋　瞬

１．出張・研修等の名称

アーク溶接等の業務に係る特別教育

２．開催場所・開催期間

開催場所：日立建機教習センタ福岡教習所
開催期間：2017 年 6 月 9 日（金）～ 2017 年 6 月 11 日（日）

３．出張・研修等への参加目的

アーク溶接機を用いた金属の溶接、溶断等の業務に従事する上で必要な基礎知識や装置の取扱い方法、作業方法を習得するため。

４．出張・研修等の概要

アーク溶接等の業務に就くときには、労働安全衛生法令において定められた特別教育を受ける必要がある。そのため、上記目的の下、日立建機教習センタ福岡教習所において本特別教育を 3 日間受講した。本特別教育は、学科 11 時間、実技 10 時間で構成されており、1 日目と 2 日目の前半に学科、2 日目の後半と 3 日目に実技を受講した。前者の内容は「アーク溶接等に関する知識」「アーク溶接装置に関する基礎知識」「アーク溶接等の作業方法に関する知識」、「関係法令」であった。後者の内容は、被覆アーク溶接棒と 5mm 厚の鉄板を用いた「アークの出し方」「ストレートビードとウィービングビードの形成」「ビードのつなぎ方とビード終端部のクレータの修正」「水平すみ肉溶接」であった。実技講習では、講師が課題ごとに受講者の作業実演を見て、上達するための指導やアドバイスが行われた。また、アーク溶接装置は 1 台であったため、自身が作業をしていない時は、どのようにしたら正しい溶接ができるようになるか考えながら、他の受講者の作業風景を観察した。

５．所感

学科を受講して、アーク溶接装置の仕組みと正しい使用方法を理解することができたと同時に、安全に対する意識を高める必要があると感じた。そのため、作業時には正しい服装の着用と装置の使用前点検や作業場の換気の実施、さらに作業場周辺に水気が無いことの確認を徹底し、事故防止に努めたい。また、実技講習では、ビードの形成時に肉厚を一定にすることが困難であった。溶接棒と鉄板の距離を常に一定に保つことで改善できることは分かったが、その技術を習得するには練習が必要だと感じた。

６．特記事項

アーク溶接特別教育修了証